

樋口直美 [ひぐちなおみ]

1962年生まれ。30代後半から幻視を見たが、目の錯覚と思っていた。41歳のとき、不眠、頭痛、倦怠感が現れ、うつ病と誤診される。抗うつ剤により重い副作用が生じ、仕事を辞める。効果を感じないまま6年以上薬物治療を続けた。2012年、虫の幻視を自覚し、検査をしたが、診断されなかった。翌年、体調不良が悪化し、症状からレビー小体型認知症と診断される。抗認知症薬により体調や幻視は改善。現在は、体調に波はあるものの、さまざまな幻覚はほとんど消えている。生活に困る認知機能の低下もほとんどなく、幸せに暮らしている。

鬼頭恵津子 [きとうえつこ]

二人姉妹の長女として生まれ、いずれは親の主介護者になる立場であることから、「介護の専門的知識を学び、体験しておこう」と考え、2000年からデイサービスで週3回のパート勤務を始める。そこでお年寄りに関わることの楽しさを知り、翌年から特養で正規職員として夜勤業務もこなし、介護職としての経験を深めた。その後、「社会貢献となるような介護事業に取り組みたい」と考える代表者と出会い、2004年、「グループホームはるた」の施設長となり、現在に至る。2009年からは「レビー小体型認知症家族を支える会」愛知支部長として活動をしている。

高瀬義昌 [たかせよしまさ]

信州大学医学部卒。東京医科大学大学院修了。麻酔科、小児科研修を経て、以来、包括的医療、日本風の家庭医学・家族療法を模索するなか、民間病院小児科部長、民間病院院長などを経験。2004年、東京都大田区に在宅を中心とした「たかせクリニック」を開業。現在、在宅の認知症医療のスペシャリストとして厚生労働省推奨事業や東京都・大田区の地域包括ケア、介護関連事業の委員を数多く務め、在宅医療の発展に日々邁進している。著書に、『はじめての認知症介護』『自宅で安らかな最期を迎える方法』『早引き・介護のための医学知識ハンドブック』などがある。

加畑裕美子 [かはたゆみこ]

東京都在住。レビー小体型認知症の父とアルツハイマー病で腎臓がんの母を在宅介護し、看取る。2009年1月、介護家族の仲間6名で「レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会」を立ち上げる。2011年10月には、「全国レビー小体型認知症介護家族おしゃべり会ネットワーク」を設立した。現在、ひと月に1回、介護家族の集いを開くとともに、現役介護家族の手作りのニュースレター「ゆるりん通信」を不定期で発行。レビー小体型認知症を知ってもらい、理解してもらうために患者と家族の声をさまざまな場に届け、話し続けている。NPO法人認知症ラボ理事。

FAX・03-6740-2439

Mail・seminar@dementia.or.jp

お申込書

お名前 [ふりがな]	
ご職業	
ご連絡先電話番号	
ご参加人数	名

Mailでお申し込みの場合、上記内容を明記のうえ、送信願います。

お申込みは先着順となります。

定員(200名)を超え、やむをえずお断りする場合のみ、ご連絡申し上げます。

参加証などは発行いたしません。当日、直接会場にお越しください。

参加費(1,000円)は、当日受付にてお支払い願います。

ご記入いただいたお客様の個人情報、当講演会の目的に限って使用させていただきます。

お問合せ

NPO法人認知症ラボ ● TEL080-4404-1898 [加畑]



認知症に関する動画・お役立ち情報満載!!!
認知症Stadium.
<http://dementia.or.jp>



▶めぐるパーシモンホール [小ホール]
東京都目黒区八雲1-1-1
東急東横線・都立大学駅より徒歩7分
駐車場は駐車台数に限りがありますので、ご来館には公共交通機関をご利用ください。

会場MAP

